



福島県地域づくり総合支援事業

「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」成果報告交流会

この成果報告交流会は、内閣府のNPO等の運営力強化を通じた復興支援事業において、新たに事業の成果等の評価及び成果の普及が求められ、ふるさと・きずな維持・再生支援事業を実施した36事業及びNPO法人等活動基盤整備事業・中間支援NPO法人等支援機能強化事業において、復興支援・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウ移転を図るものです。

成果報告交流会は、3月12日に郡山のビックアイ市民交流プラザの大会議室と展示室で開催されました。この会は、事業関係者は勿論、広く一般の方々に事業報告の共有をしていただくためのものです。

まず、今回の成果報告の共有の為の様々な視点について、ふくしまNPOネットワークセンター理事長の星野珙二氏と福島大学経済経営学類教授の清水修二氏での対談が行われました。

この中で、復興支援の在り方が変化していること、個人レベルを意識したきめ細やかな支援手法等支援の多様さの必要性が確認されました。

その後、展示室に移動しきずな事業実施36団体の活動報告を見ながら名刺交換・意見交換などの交流時間となりました。

午後からは、県外避難者支援・地域経済支援・復興支援・子供支援の4つの分科会に分かれ、それぞれ鈴木亮・清水修二・星野珙二・原野明子コーディネーターを迎え、より具体的な活動報告が行われました。

この分科会の成果報告、ディスカッションによってより親密な絆を築くことができましたと感じました。

最後に、これらを受けてコーディネーターによる全体シンポジウムが行われ、多くの事業の連携や将来を担う子どもたちの視点から見た復興支援の大事さなど、分科会ごとの内容が参加者全員に共有されました。

5つのゾーンに分け、それぞれの分科会ごとに変化のある形態によって行われた本成果報告交流会は「楽しかった。」「面白かった。」「良かった」という評価とみんなの笑顔で締めくくることができました。

参加者の方々は勿論多くの関係者に心からの感謝をいたします。本当にありがとうございました。

(報告:丹治 武志)



分科会、シンポジウム等、有意義な時間を共有！



展示室では活発な情報交換が行われていました

『百聞は一見に如かず』

ふくしま NPO ネットワークセンター理事長 星野 珙二

約25団体がそろい踏みをした「ふるさと・きずな維持・再生事業」の成果報告交流会は、大きな成果をあげて終了することができました。百聞は一見に如かずという言葉があるように、活動報告書を見て想像していたよりも実際のプレゼンやパネル展示を見たほうがはるかに多くの有益な情報が得られ、各団体の頑張りの様子が伝わってきました。ここで得られた成果が、多くの団体に共有化され、モデル事例として波及することを期待いたします。

◆市民活動フェスティバル2014開催！◆

～大雪にも負けず～

このたびは『ふくしま市民活動フェスティバル2014』にご協力をいただきましたこと、誠に有難うございました。本フェスティバルは、2月16日(日)の全日、MAX ふくしま(旧さくら野)4階の「A・O・Z(アオーゼ)」を会場に、開催いたしました。

あいにく、大雪の中での開催となりましたが、予定通りにプログラムを実施させていただきました。フェスティバルには概ね50以上の活動団体から自主参加がありました。しかし、交通機関の乱れから来場者数は伸びませんでした。しかし、充実した内容で実施することが出来ました。当日の大雪の中をお越しくださしました来場者の皆さま、また大雪の中を参加していただきました団体の皆さま、誠にありがとうございます。結果としては残念なことになりましたが、準備段階からの取り組みを通じて、県北NPOの結束を改めて確認することができました。今回の教訓を来年度のフェスティバルに活かし、更なる向上を図りたいと思います。

あの震災から早いもので3年が経ちました。その経緯もあり、今回はフェスティバルという従来の形式で開催することができました。改めて、ふくしま市民活動フェスティバル2014を無事終了いたしましたことをご報告し、皆さまへの御礼をとさせていただきます。

(報告:ふくふくプロジェクト 相澤 義和)



悪天候に負けないように
気合を入れて、開会！



昨年度の助成金の成果報告会も開催されました

清水修二先生の退職のお祝いに添えて

～退職を祝う会開催報告～



にこやかに挨拶
される清水先生



ありがとうございました

清水修二先生の福島大学退職を祝う会が、3月17日(月)18時30分よりウエディングエルティに於いて45名が参加して開催されました。

会は発起人代表で当センター星野珙二理事長の挨拶から始まり、ご列席を代表して中井勝己福島大学長にお祝いの言葉をいただきました。記念品の温泉ペア宿泊券に花束を添えて贈られると、会場は温かい拍手に包まれました。

清水先生はこれまでのあゆみを画像使って皆さんとともに振り返りました。さらに、ご列席をいただきました語り部の横山幸子さんは、平和を願って「おこりじぞう」のおはなしで華を添えてくださいました。会場内では会話が弾み、笑顔に花咲く時間が過ぎたあとに、会員の佐藤英雄さんの三本締めで御披露となりました。

清水先生にはこれからも健康に留意されてご活躍いただき、また、ふくしまNPOネットワークセンターの良き仲間として末永くよろしく願っています。

ご参加、ご協力をいただきました皆様方に感謝申し上げます。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター常務理事 齋藤 美佐)

～ふくしま元気市民活動助成金 支援決定の3団体より～

「小田付南町 2850 プロジェクト」

会津北方小田付郷町衆会

小田付地区は、江戸時代に会津若松と米沢を結ぶ街道の要衝として栄えた喜多方のほぼ中央を流れる田付川の東に位置する、16世紀から連続と続く在郷町です。この地域には現在でも主に土蔵を中心とする昔の町並みが残っており、今もその土蔵の多くは店蔵・座敷蔵・醸造蔵・倉庫蔵などとして、住民の生活の一部となっております。私たち会津北方小田付郷町衆会は、この小田付地区を愛し、その町並みの保存を目指す人々が、地域の内外を問わずに集まった任意団体です。あの歴史に残る戊辰戦争を裏舞台で支えた誇り高き商人の末裔として、この昔ながらの美しい景観を維持、向上させつつ最大限に活用することで、この地区を魅力的な街として再生させ、ひいては会津地区全体の活性化にも寄与することを目的としております。

「安積歴史博物館の清掃を通じた若者の社会参加」

NPO法人キャリア・デザイナーズ

昨年12月から、震災後仮オープンした安積歴史博物館の清掃を月に2回程行っています。ニート状態にある若者の社会参加の第一歩として、地域のボランティアの協力も得ながら 一生懸命取り組んでいます。この事業を通して、清掃が仕事につながるという自信を持ち、ハウスクリーニングのアルバイトに挑戦する若者も現れ始めました。今後は広報活動を更に展開させ、地域住民との交流の機会を増やしていく予定です。

「てととと会」

はみんぐBIRD

初めまして。避難経験を経て福島に戻った母たちで立ち上げた子育てサークル「はみんぐBird」です。「はみんぐ Bird」とは「ハチドリ」です。本「ハチドリのひとしずく」の一文にある「わたしは私にできることをする。」そんな思いで一人一人の「存在」や「小さな思い」や「今ここ」を大切にしていこうと活動中です。震災によりコミュニティーの在り方が様々に変化する中、避難経験した後に戻った環境で、様々な思いを心の奥にとどめて暮らす、特に母親の心の奥にある声を開放しやすい居場所として「てととと会」という聴く話会を開催しています。ここを入口に一人ひとりが本来もっている力を取り戻すような活動を育てたいと思っています。

～ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金 支援決定の3団体より～

「アートで育む子どもたちの未来」

ARTS for HOPE

ARTS for HOPEは、WonderArtProduction(1999年1月に設立)を運営母体とするアート専門のNPO団体です。

震災で心に大きな負担を抱えた子どもたちや住民の方々を対象に、創作活動を通じた心穏やかな時間と温かなコミュニケーションスペースをお届けしたいという思いで2011年3月20日に設立されたアート団体です。

本事業では、子どもたちや高齢者を対象にアートプログラム(世界でたった1つのオリジナルの人形作り等)を実施し、無から有を生み出す子供達の創造力を育成します。

「チャイルドラインふくしま会員募集パンフレット作成」

チャイルドラインふくしま

電話を通じて18歳までの子どもたちの気持ちに寄り添う活動です。お説教ぬき、押し付けぬき、子どもたちの声にただただ耳を傾けます。また、チャイルドラインには、「チャイルドライン4つの約束」があります。

1. ヒミツはまもるよ 2. 名まえは言わなくてもいい 3. どんなことでも一緒に考える 4. 切りなくなったら切っ払い

子どもたちからの電話では、人間関係、いじめ、身心に関する事、進路、恋愛、性に関する事など、その内容は多種多様ですが、私たちはその声と心を大切に受け止めていきます。

「知っておきたい介護旅行」講座開催事業

NPO 法人あつとホームサービス

NPO 法人あつとホームサービスが実施する「知っておきたい介護旅行」の無料説明会の概要は、高齢者や障害者の方が1人での旅行に心配や不安を抱いて断念している場合が多い。そこで介護旅行の専門家のアドバイスや旅行手配と、必要に応じてトラベルヘルパーが同行する事により安心安全に旅行が出来るので「旅は心と身体のリハビリ」であるから外出を諦めないで欲しい。合わせて、その介護旅行に不可欠なトラベルヘルパーの事も広く周知してもらい、今後はニーズのある仕事として関心をもってもらう事を狙いとしています。

◆2013年度住友商事東日本再生ユースチャレンジプログラム◆ ～インターン修了報告会～

3月9日(日)福島市市民活動サポートセンターにおいて「2013年度 住友商事 東日本再生 ユースチャレンジプログラム インターン奨励プログラム インターンの修了報告会」が行われました。

これは、住友商事の復興支援事業の一環で被災地の若者の人材育成を目的に、昨年7月より今年の3月までの9か月間、福島県内の4つのNPO法人団体で6名のユースが活動するというもので、ふくしまNPOネットワークセンターも現地協力団体兼インターン受入れ団体として参加していました。

修了報告会では、6名のインターンがそれぞれ活動報告をし、住友商事環境・CSR部の森優子さんより修了証書を、また当法人星野理事長より成果証が手渡されました。2014年度の募集は4月26日より開始いたします。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター
理事 内山 愛美)



▲笑顔の修了生6名

インターン活動はなかなか大変ですがやりがいがありました。NPO 団体への取材、インターン同士の仲を深めるための活動など、いろんなことをやってみたい、という活動的な人にお勧めの活動です。(インターン修了生 藤本 太威尊)

このインターンで得られる経験を、自分だけで得るのは難しいと思います。これまで自分に関係のなかったことが、自分に関係あることになりました。(インターン修了生 山崎 友也)

—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

—福島市より受託、運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

編集後記

☑ 新年度を迎え、今年度も気持ち新たにがんばりたいと思います。

(事務局・根本 靖子)



☑ 今年も花見の季節がやってきました。花見山、信夫山、桜づつみ公園、毎年とても楽しみです。

(事務局・大山 亜紀子)

●編集・発行

認定特定非営利活動法人

ふくしまNPOネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F

TEL 024-528-1211

FAX 024-528-1218

E-mail center@f-npo.jp

URL <http://www.f-npo.jp/>

